

國學院大學学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1924

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2016年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2015年度以前の研究業績についても掲載します。

井上順孝 所長・教授 宗教学、宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・『〈日本文化〉はどこにあるか』（編集責任、國學院大學日本文化研究所編）春秋社、2016年8月。
- ・『リーディングス戦後日本の思想水脈6 社会の変容と宗教の諸相』（編）岩波書店、2016年11月。
- ・『学生宗教意識調査総合報告書（1995年度～2015年度）』（編集責任）、國學院大學、2017年2月。

[論文]

- ・「ポスト・サリン事件の学生の宗教意識とオウム真理教観—20年間に生じた宗教意識の変化を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第9号、2016年9月、79-101頁。

[口頭発表]

- ・「地下鉄サリン事件後20年間における学生の宗教意識の変化」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月11日。
- ・「日本の若者は宗教をどう見ているのか—20年にわたる意識調査をてがかりに—」國學院大學日本文化研究所国際研究フォーラム、2016年10月16日。
- ・（講演）「グローバル時代の日本の宗教状況」埼玉県神職会、2016年6月21日。
- ・（講演）「新宗教と日本人の宗教意識」府中市、2016年9月13日。
- ・（講演）「宗教観—日本人にとっての宗教、現代における宗教」日本生産性本部、2016年10月22日。
- ・（講演）「宗教文化にオートファジー現象はあるのか—現代宗教を研究して見えてくること—」國學院大學大学院講演会、2016年12月7日。
- ・（講演）「世界の宗教が禁じてきたもの—その信仰と戒律のなぜ—」國學院大學博物館、2016年12月17日。
- ・（講演）「宗教研究は脳科学・認知科学の展開にどう向かいあうか」宗教哲学会、2017年3月25日。
- ・（講演）「宗教社会学」警察大学校、2016年6月16日、10月27日、2017年3月1日。

[その他]

- ・（書評）「西山茂編著『シリーズ日蓮4 近現代の法華運動と在家教団』」『宗教と社会』22号、2016年6月、100-103頁。
- ・（随筆）「『共感』という脳の仕組み」『中外日報』、2016年8月26日。
- ・（随筆）「神がかり体験どう理解？」『中外日報』、2016年9月2日。
- ・（随筆）「自他分ける境界線がない」『中外日報』、2016年9月9日。
- ・（随筆）「『特別な意識』根拠はどこ」『中外日報』、2016年9月16日。
- ・（テレビ出演）「中居正広のミになる図書館」テレビ朝日、2016年11月1日。
- ・（ラジオ出演）「峰竜太のミネスタ」にゲスト出演、ラジオ日本、2016年5月3日。
- ・（ウェブ会議）イー・ウーマン 働く人の円卓会議議長「イスラム教徒と話したこと、ありますか？」2016年7月。
- ・（コラム・シネマ特別席）「カナリア」『中外日報』、2016年4月。
- ・（コラム・シネマ特別席）「人間革命」『中外日報』、2016年5月。
- ・（コラム・シネマ特別席）「ローマ帝国に挑んだ男 パウロ」『中外日報』、2016年6月。
- ・（コラム・シネマ特別席）「アジアの瞳」『中外日報』、2016年7月。

- ・(コラム・シネマ特別席)「ミリオンダラー・ベイビー」『中外日報』、2016年8月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「サラエボの花」『中外日報』、2016年9月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「王になった男」『中外日報』、2016年10月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「ボーダレス 僕の船の国境線」『中外日報』、2016年11月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「メイド・イン・フランスーパリ爆破テロ計画」『中外日報』、2016年12月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「アンダーグラウンド」『中外日報』、2017年2月。
- ・(コラム・シネマ特別席)「アメリカン・スナイパー」『中外日報』、2017年3月。

藤澤紫 教授 日本美術史、日本近世史、比較芸術学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【論文】

- ・「江戸出版界が生んだアイドル—伝説になった「お仙」—」『偶像（アイドル）の系譜—神々と藝能の一万年—』國學院大學博物館、2016年4月、10頁-11頁。
- ・「北斎を歩く すみだでたどる天才絵師の生涯。』『東京人』12月号、都市出版 2016年12月、28-43頁。
- ・「ニュースになった江戸文化—浮世絵が創る「時代の顔」—」藝術学関連学会連合 第11回公開シンポジウム「ニュースを創り出すアートの力」シンポジウム報告『浮世絵芸術』173号、2017年1月、51-52頁。

【□頭発表】

- ・「ニュースになった江戸文化—浮世絵が創る「時代の顔」—」藝術学関連学会連合第11回公開シンポジウム「ニュースを創り出すアートの力」、於早稲田大学戸山キャンパス、2016年6月11日。
- ・(シンポジウム)「祭りと祈り」国際浮世絵学会第21回秋季大会、於國學院大學常磐松ホール、2016年11月27日。
- ・(講演)「浮世絵で楽しく見る江戸文化」埼玉県立歴史と民俗の博物館・友の会・共催・歴史講演会、埼玉県立歴史と民俗の博物館、2016年5月21日。
- ・(講演)「涼しい浮世絵」第3回浮世絵摺り実演会(体験付)・夕涼み浮世絵講座、國學院大學常磐松ホール、2016年8月3日。
- ・(講演)「開館50周年記念特別展 山種コレクション名品選Ⅱ 浮世絵 六大絵師の競演 —春信・清長・歌麿・写楽・北斎・広重—」内覧会特別講演、山種美術館、2016年8月28日。
- ・(講演)「浮世絵から学ぶ江戸時代の文化と庶民の暮らし」渋谷区文学・文化教養講座、渋谷区上原社会教育館、2016年10月～12月。
- ・(ミュージアムトーク)「江戸・東京のカワイイ文化」國學院大學博物館、2016年5月14日。
- ・(講座)國學院大學オープンカレッジ「遊べる日本美術2～絵画・工芸・衣装の美意識～」國學院大學、2016年4月～11月。
- ・(講座)「平成28年度 渋谷区 文学・文化教養講座 浮世絵から学ぶ江戸時代の文化と庶民の暮らし」上原社会教育館、2016年9月～12月。
- ・(講座)「日本美術の名宝 日本の国宝・重要文化財シリーズ」学習院大学生涯学習センター、2016年4～6月、10～12月。
- ・(講座)「楽しくまなぶ浮世絵と江戸文化」清泉女子大学ラファエラ・アカデミア、2016年5～6月。
- ・(講座)「日本の美をめぐる—江戸時代絵画と都市文化の華やぎ—」東洋大学エクステンション講座、2016年10月15日。

【その他】

- ・(書評)「大久保尚子『江戸の服飾意匠 文芸、美術、芸能との交流と近代への波及』」『文学』第17巻第4号、岩波書店、2016年7月、182-188頁。
- ・(テレビ出演)「趣味どきっ! 旅したい! おいしい浮世絵 特別篇 歌川国芳と国貞」NHKEテレ、

2016年5月31日。

- ・(テレビ出演)「尾上松也の古地図で謎解き! にっぽん探究 広重「名所江戸百景」の鎮魂歌」BS11、2016年8月31日。
- ・(テレビ出演)「原宿アベニュー 原宿Abema news 北斎ブーム」AbemaTV、2017年1月12日。
- ・(監修)「趣味どきっ! 旅したい! おいしい浮世絵(全8回)」NHK Eテレ、2016年4月~5月。
- ・(監修)「極上! 旅のススメ」テレビ朝日、2016年11月12日。
- ・(作品解説)「文正草子絵巻(行徳家旧蔵本)」解説 『ミュージアム・レター』32号、学習院大学史料館、2016年10月、9頁。
- ・(学報)「ブーム沸騰中!?日本の美「浮世絵」の魅力に迫る」「文系解体新書」(コラム)学報別冊『K:DNA』2016年夏号、國學院大學広報、2016年8月。
- ・(新聞)「Why and for what purpose do some in a kabuki audiences shout toward the stage?」(「Japan through the Five Senses」)『THE JAPAN NEWS』2016年9月20日付。
- ・(新聞)「Why do kabuki actors play female roles?」(「Japan through the Five Senses」)『THE JAPAN NEWS』2016年10月3日付。
- ・(新聞)「Why do the faces of women in Japan's bijinga paintings look mostly alike?」(「Japan through the Five Senses」)『THE JAPAN NEWS』2016年10月31日付。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 教授

日本宗教史、日本の民間信仰

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「トランプ時代におけるアメリカの多文化主義」國學院大學研究開発推進センター編・古沢広祐責任編集『共存学4』弘文堂、2017年3月、189-206頁。

黒崎浩行 教授 情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・『災害支援ハンドブック—宗教者の実践とその協働—』(宗教者災害支援連絡会編、蓑輪顕量・稲場圭信・黒崎浩行・葛西賢太責任編集)春秋社、2016年6月。
- ・『東日本大震災 神社・祭り—被災の記録と復興—』(神社新報社編、編輯委員:板井正斉・黒崎浩行・藤本頼生・牟禮仁・茂木栄・前田孝和)神社新報社、2016年7月。

[論文]

- ・「渋谷の防災・減災と宗教文化」國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会・上山和雄編著『渋谷学叢書5 渋谷 にぎわい空間を科学する』雄山閣、2017年2月、209-228頁。

[口頭発表]

- ・「東日本大震災の復興過程と宗教文化—「生態系を活かした防災・減災」における期待をめぐって—」『宗教と社会』学会第24回学術大会、於上越教育大学、2016年6月11日。
- ・「本調査への東日本大震災の影響を確認し、復興へのヒントをさぐる」(パネル「神社・神職に関する実態調査」による研究的成果と今後への期待) 神道宗教学会第70回学術大会、於國學院大學、2016年12月4日。

[その他]

- ・(コラム)「本調査への東日本大震災の影響を確認し、復興へのヒントをさぐる」神社本庁総合研究所「神社・神職に関する実態調査」報告書 神社本庁総合研究所、2016年6月、141-146頁。

平藤喜久子 教授 神話学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・『日本の神様と楽しく生きる』東邦出版、2016年11月。
- ・『神のかたち図鑑』（松村一男と共編）白水社、2016年11月。

[論文]

- ・“Translation Issues in Kojiki: God, Deity, or Spirit?“, Marcin Lisiecki, Louise S. Milne, Nataliya Yanchevskaya ed. *Power and Speech: Mythology of the Social and the Sacred*, EIKON, 2016.

[□頭発表]

- ・“Girls Meet Deities: Deities in Japanese Pop Culture”, International Sociological Association, University of Vienna, 14 July 2016.
- ・「神話とウェルビーイング」日本宗教学会第75回学術大会、パネルディスカッション「宗教とウェルビーイングの比較宗教社会学」、於早稲田大学、2016年9月10日。
- ・(講演)「現代と神話の読まれ方」一般財団法人神道文化会、於國學院大學、2016年6月18日。
- ・(講演)「世界の聖婚伝承と日向神話」神話のふるさと県民大学、於宮崎県立図書館、2016年9月3日。
- ・(講演)「異類の恋」スプツニ子！トークイベント『神話が未来になる日』、於國學院大學、12月16日。

[その他]

- ・(監修)『神社の解剖図鑑2』エクスナレッジ、2016年12月。
- ・美術連載「神々の姿をたずねて」(1)～(15)、時事通信、2016年9月16日～12月25日配信。信濃毎日新聞、北陸新聞他掲載。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[論文]

- ・「文化としての神道と多元主義」國學院大學研究開発推進センター編・古沢広祐責任編集『共存学4』弘文堂、2017年3月、133-148頁。

[□頭発表]

- ・「近世神道における神仏関係再考—兩部の杜と唯一の杜—」第75回日本宗教学会学術大会、於早稲田大学、2016年9月10日。
- ・「近世における人霊祭祀の展開(3)」第34回神社本庁神道教学研究大会、於神社本庁、2016年8月30日。

[その他]

- ・(コメンテータ)「三ツ松誠氏報告批判」歴史学研究会日本近世史部会2016年度大会批判報告会、於東京大学本郷キャンパス、2016年7月24日。

遠藤潤 准教授 宗教学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[□頭発表]

- ・「大正初年の「神道」—柳田國男「神道私見」を焦点として—」神道宗教学会例会、於國學院大學、2016年3月5日 [※掲載漏れの過年度業績]。

[その他]

- ・(コメンテータ) CIR Seminar for the Study of Japanese Religion and Culture 2016、2016年6月4・5日

星野靖二 准教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「清沢満之の「信」—同時代的視点から」山本伸裕・碧海寿広編『清沢満之と近代日本』法蔵館、2016年11月、113-138頁。
- ・「神道指令後における新しい神道の構想—岸本英夫の神道論をめぐって」吉馴明子・伊藤彌彦・石井摩耶子編『現人神から大衆天皇制へ—昭和の国体とキリスト教』刀水書房、2017年3月、109-135頁。

[口頭発表]

- ・「『経世博議』と中西牛郎」日本近代仏教史研究会第24回大会、於立正大学、2016年6月4日。
- ・「明治前期宗教メディアの再検討—翻訳論説を焦点として」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月10日。
- ・「明治前期「宗教」論の再検討—宗教メディアという場に即して」日本思想史学会2016年度大会、於関西大学、2016年10月30日。
- ・「中西牛郎と其の時代—明治中葉までを中心に」龍谷大学アジア仏教文化研究センターグループ1ユニットB（近代日本仏教と国際社会）第4回ワークショップ、於龍谷大学、2017年1月24日。
- ・「『新佛教』のゆくえ—中西牛郎・『経世博議』・清沢満之」大谷大学真宗総合研究所清沢満之研究班研究会、於大谷大学、2017年2月23日。

[その他]

- ・（項目執筆）「他宗教と関係する：キリスト教と出会った仏教」、「他宗教と関係する：ユニテリアンの与えたインパクト」、「初心者のための人脈相関図—ユニテリアン系」、「初心者のためのブックガイド：近代仏教とキリスト教—排斥と対話」吉永進一・大谷栄一・近藤俊太郎編著『近代仏教スタディーズ』法蔵館、2016年4月、133-136、137-140、175-177、233-234頁。
- ・（書評）「前川理子『近代日本の宗教論と国家—宗教学の思想と国民教育の交錯』」（『近代仏教』23号、2016年5月、201-205頁。

齋藤公太 助教 日本思想史、宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」／「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[論文]

- ・「日本神学の形成—近世日本における『神皇正統記』の受容史—」東京大学、2016年9月、博士論文。
- ・「近世前中期における『神皇正統記』の受容史—羅山・素行・白石の事例を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第9号、2016年9月、119-134頁。
- ・「村岡典嗣の神道史研究とキリスト教—近代国体論と宗教理解—」吉馴明子・伊藤彌彦・石井摩耶子編著『現人神から大衆天皇制へ—昭和の国体とキリスト教—』刀水書房、2017年3月、137-158頁。
- ・「明治国学と『神皇正統記』—刊本・注釈書から見る受容史—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第9号、2017年3月、55-90頁。

[口頭発表]

- ・「The Formation of the Japan Theology: Beyond the Theory of "State Shinto"」東京大学・シカゴ大学合同ワークショップ「東京大学とシカゴ大学における日本研究」、於東京大学、2016年10月8日。

[その他]

- ・（翻訳）マーク・R・マリンス「〈震災後〉の日本におけるネオナショナリズム」塚田穂高編著『徹底検証 日本の右傾化』筑摩選書、2017年3月、128-147頁。

吉永博彰 助教(特任) 中世・近世の神道史、神社有職故実

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[研究紹介]

中世・近世を主とした神道史学を専攻分野とし、特に神社史研究に重点を置いている。中でも、伊豆三嶋神社や伊豆国三嶋社、三嶋宮などと称された現在の三嶋大社(静岡県三島市大宮町)を対象に、その歴史的な変遷について、「祭祀」「管理」「経営」の観点から、神職組織の展開や社領・境内地の変遷、為政者との関わりや祭祀の特徴などを考察している。

また、近年は神社祭祀に関連する神社有職故実(神祭具)の講究もあわせて進めており、「神籬」や「御幣」、「太麻」など、「祭祀の場(神前)」を構成し、ならびに祭祀にあっては神に対して手向けるもの・捧げるものなど、祭祀に用いる用具の歴史的変遷も研究対象としている。

[論文]

- ・「祓具の諸相—大麻(おおぬさ)を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第9号、2017年3月、25-54頁。

[口頭発表]

- ・「史料から見た三嶋大社の境内とその変遷」神社史料研究会第22回サマーセミナー、於三嶋大社、2016年8月28日。
- ・(記念講演)「神と紙のはなし」第60回館林邑楽神社関係者大会、於館林市三の丸芸術ホール、2016年5月19日。

[2015年度までの主な業績]

- ・「建築儀礼に於ける御幣—近世の儀礼次第を用いて—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第8号、2016年3月、37-74頁。
- ・「香取神宮神幸祭絵巻に描かれた神職とその組織」『〔平成27年度特別展〕香取神宮—神に奉げた美—』(千葉県立美術館)、2015年11月、49-56頁。
- ・「祭具としての神籬—古典解釈にみたその用例—」『神道宗教』第238号、2015年4月、59-92頁。

鈴木聡子 客員研究員 神道史学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」/『國學院大學国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—

[口頭発表]

- ・「神社節日行事と国家節会との関係について—五月五日を中心に—」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月10日。

[その他]

- ・「平安時代の祭祀」『祭祀・祭礼の変遷—古代・中世を中心に—』國學院大學研究開発推進機構学術資料センター、2017年2月、12-13頁。

市川収 客員研究員 惑星物質科学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

加藤久子 客員研究員 政治と宗教

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「社会主義政権下での宗教実践——スターリン期ポーランドの新興工業都市の暮らし」中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編『近代ヨーロッパとキリスト教——カトリシズムの社会史』勁草書房、2016年10月、33-57頁。

- ・「共存の歴史として描かれたもの——ポーランドのユダヤ人の歴史博物館」國學院大學研究開発推進センター編・古沢広祐責任編集『共存学4』弘文堂、2017年3月、65-86頁。

[その他]

- ・「ドイツによるシリア難民受け入れ——矜持と打算、そして混乱と文化摩擦」『ラク便り』第70号、2016年6月、66-70頁。
- ・(翻訳) ウィリアム・ケリー著「ローカルな生活世界から見える現代日本——人類学者の視点から」國學院大學日本文化研究所編・井上順孝責任編集『〈日本文化〉はどこにあるか』春秋社、2016年8月、141-178頁。
- ・(資料紹介)「ポーランドのボードゲームに描かれるカトリック修道会の世界」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第9号、2016年9月、47-55頁。
- ・「仏ニースにおけるテロと『ブルキニ』着用をめぐる論争」『ラク便り』第72号、2016年11月、62-65頁。

イグナシオ・キロス (QUIROS, Ignacio) 客員研究員 上代語・上代の認識論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「上代における〈事〉という漢字と〈コト〉という倭語との間の意味的な隔たりをめぐる」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第9号、2016年9月、103-118頁。

[口頭発表]

- ・「Lectura e interpretación de la cosmogonía del Kojiki. Primera genealogía」人文学部東アジア研究講座、マドリード自治州大学、2017年3月1日。
- ・「Présentation de la thèse doctorale « Sens et fonctions de la notion de koto dans le Japon archaïque »」研究セミナー、日仏会館、2016年6月21日。

[その他]

- ・「Studies on the Kojiki (『古事記』第一章英訳, in cooperation with Kate Wildman Nakai) 『古事記学——國學院大學二十一世紀研究教育計画委員会研究事業文部科学省私立大学研究ブランディング事業成果報告論集一』第3号、2017年3月、295-306頁。

チャールズ・フレール (FREIRE, Carl) 客員研究員

近代の日本史 (特に社会史・思想史)

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

村上晶 PD研究員 宗教社会学、シャーマニズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[口頭発表]

- ・「How Can an Oracle Become a Public Affair?: The Case Study of Oshira-sama Shrine in the Tsuguru Area», East Asian Regional Preliminary Workshop for SISR 2017、於國學院大學、2016年10月15日。

丹羽宣子 PD研究員 宗教社会学、ジェンダー論

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開——明治期の国学・神道関係人物を中心に——」

[研究紹介]

現代日本仏教について、ジェンダー、家族、仏教教理と生活世界の連続性、などの視点からアプローチしている。特に関心をもっているのは、僧侶たちが現代社会の中で聖職者として、かつ生活者として試行錯誤を重ねる過程である。ここから現代日本社会に生きる僧侶たちの等身大の実践と思考の歩みに接近すべく、実証的資料収集を重ねながら考察している。これまでの研究では日蓮宗女性僧侶を経験的

事例として設定し、彼女たちが果たそうとしている宗教者としての役割や課題を同時代の社会的文脈とともに描き出すことに努めてきた。今後は教えに対する宗教者の能動的態度、家族的連帯を前提とする仏教寺院のあり方について、より検討していきたい。

[論文]

- ・「〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学—日蓮宗女性僧侶の事例から」一橋大学、2016年10月、博士論文。

[その他]

- ・「〈グループ・メンタリングに参加して メンティの声〉」『文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者支援モデル育成 女性研究者研究活動支援事業（一般型）一橋大学女性研究者研究活動支援事業 平成25～27年度—事業報告書—』2016年3月。
- ・（書評）「川橋範子・小松加代子編著『宗教とジェンダーのポリティクス』」『わたちの21世紀』第89号、2017年3月、61頁。

[2015年度までの主な研究業績]

- ・「〈女性と仏教〉をめぐる現代的課題とその解決に向けて—「女性と仏教 東海・関東ネットワーク」の事例から」一橋大学、2008年1月、修士論文。
- ・「女性僧侶とジェンダー—日蓮宗女性僧侶の「法華経」の語りに着目して」『公益財団法人松下幸之助記念財団研究助成（平成23年度）活動報告書』2012年。
- ・「仏教と女性をめぐる現代的課題—女性仏教徒たちの語りから」日本宗教学会第70回学術大会、於関西学院大学、2011年9月3日。

問芝志保 研究補助員 宗教社会学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[研究紹介]

日本における先祖祭祀が、明治以降の近代化のなかでどのような変容を遂げてきたのかを、宗教社会学・近代日本宗教史の先行研究にもとづきながら文献資料の解析と現地調査を通じて明らかにすることを目指している。まずは穂積陳重による〈皇祖＝国民的先祖〉論を取り上げ、それが西洋的眼差しを内面化して先祖祭祀を語り直した新しい国民的アイデンティティであったことを明らかにした。そしてこうしたいわば近代的な先祖観が立ち上がるなかで、衛生問題や租税、都市計画や景観、信教の自由といった課題の解決も含めたかたちで近代的な墓制が構想され、人々に受容されていった過程について、札幌と東京をフィールドとした調査研究を行っている。

[論文]

- ・「『国体イデオロギー』言説の知識社会学—穂積陳重の先祖祭祀論—」寺田喜朗ほか編『近代日本の宗教変動—実証的宗教社会学のアプローチから—』ハーベスト社、2016年6月、305-342頁。
- ・「明治10年代以降の墓地法制と都市—札幌にみる墓制の近代—」『宗教と社会』22、2016年6月、1-15頁。

[口頭発表]

- ・「昭和戦前期における墓相学の成立」『宗教と社会』学会第23回学術大会、於上越教育大学、2016年6月11日。
- ・“Memorial Services for the Bereaved: The Role of Funeral Buddhism” in Panel: Buddhism beyond Temple Walls: The Everyday Engagements of Japanese Buddhists (panel chair: Daniel Friedrich), 26 June 2016, AAS-in Asia, Doshisha Univ.
- ・「墓地の聖地化—東郷平八郎の埋葬を中心に—」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月10日。

[その他]

- ・「埋葬の実状」曹洞宗宗務庁『曹洞宗宗勢総合調査報告書 2015年（平成27）』2017年3月、86-91頁。

[2015年度までの主な研究業績]

- ・(項目執筆)「墓制度」袁輪顕量編『事典 日本の仏教』吉川弘文館、2014年2月、492-497頁。
- ・「祖先祭祀の「文明化」—穂積陳重を事例として—」『宗教研究』379、2014年6月、25-47頁。
- ・「戦後札幌市における墓地移転と先祖の顕彰」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）17、2016年3月、81-94頁。

矢崎早枝子 共同研究員 イスラーム学、比較宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[研究紹介]

専門はイスラーム学、比較宗教学。特に中世スーフイズム（イスラーム神秘主義）思想研究を軸に、イスラーム内部の多様性、倫理観、他宗教との関わりについての考察を行っている。中世スペインにおけるイスラーム教徒とユダヤ教徒の関係、ヘブライ文字で書かれた中世アラビア語文献の役割を通じて、イスラームとユダヤ教の共通性についても着目している。最近のプロジェクトとしては、20世紀エルサレム生まれのユダヤ人学者のイスラームや中世スペインについての研究の考察、スーフイズムと禅・茶道の西洋、特にイギリスでの近現代の発展について調べている。

[論文]

- ・“Muslim-Jewish relations in the Duties of Hearts: A.S. Yahuda and his study of Judaism”. In: J.W. Meri (ed.) *Jewish-Muslim Relations in Past and Present: A Kaleidoscopic View*. Brill: Leiden, 2017, pp. 137-61.

[口頭発表]

- ・“We Jews of the East: Zionism and scholarship of A.S. Yahuda (d. 1951)”, Arab Jews: Concepts, Histories, Definitions, 1 July 2016, University of Edinburgh
- ・“Sufi-Hanbali dialogue: Abu Talib al-Makki and the meaning of piety”, Sufis and Mullahs: Sufis and their Opponents in the Persianate World, 15 April 2016, University of Exeter.
- ・(講演) “Islam” in the panel “Migration, cultures, beliefs: the limits of tolerance”, ReX 6 Applied Enlightenment, 27 October 2016, Glasgow Kelvin Hall
- ・(講演) “Japanese tradition and culture”, Japanese tradition and culture: a talk and Rakugo performance (by Katsura Sunshine), 17 October 2016, University of Glasgow (co-organised with the Consulate General of Japan in Edinburgh and the Japan Society of Scotland)
- ・(講演) “Jihad”, “Is the use of violence allowed in Islam?”, “Homosexuality in Islam”, The Burrell Collection for their Refurbishment Project Interpretation Seminar: Islam, 7 September 2016, Glasgow Burrell Collection

[2015年度までの主な研究業績]

- ・ *Islamic Mysticism and Abu Talib al-Makki: The Role of the Heart*. Oxford: Routledge, 2013.
- ・“Morality in early Sufi literature”. In: L. Ridgeon (ed.) *The Cambridge Companion to Sufism*. Cambridge: Cambridge University Press, 2015, pp. 74-97.
- ・“A pseudo-Abu Talib al-Makki?: The authenticity of ‘Ilm al-qulub”. *Arabica*, 59(6), 2012: 650-684.

塚田穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・『近現代日本の宗教変動—実証的宗教社会学の視座から—』（共編著）ハーベスト社、2016年6月。
- ・『徹底検証 日本の右傾化』（編著）筑摩書房（筑摩選書）、2017年3月。

[□頭発表]

- ・「変貌する地域社会のなかの神社神道—北海道砂川市有地上神社違憲訴訟のフィールドから—」『宗教と社会』学会第24回学術大会、於上越教育大学、2016年6月12日。
- ・「戦後日本の公有地上「宗教」施設の分布と特徴」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月11日。
- ・「日本会議の宗教社会学的分析」全国靈感商法対策弁護士連絡会東京集会、於プラザエフ、2016年9月16日。
- ・「戦後日本の宗教と政治」『宗教と政治のインターフェイス』第3回講演会、於南山大学、2016年9月30日。
- ・「戦後日本の政教分離訴訟の展開—「宗教」「国家神道」をめぐる論争—」、第89回日本社会学会大会、於九州大学、2016年10月8日。

[その他]

- ・「日本会議、改憲潮流のなかの「宗教」 避けず、貶めず、向き合うこと」『Journalism』2016年5月号、2016年5月、62-69頁。
- ・（書評リプライ）「書評とリプライ 塚田穂高著『宗教と政治の転軸点—保守合同と政教一致の宗教社会学—』」『宗教と社会』22、2016年6月、92-93頁。
- ・（報告）「報告1. 趣旨説明とオウム事件後20年の成果」（テーマセッション報告「ポストオウム研究の課題と展望—地下鉄サリン事件20年の地点から—」）『宗教と社会』22、2016年6月、131-132頁。

天田 顕徳 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「修験道復興の内実にみる「変化」の側面—明治・大正期を事例として—」『中央学術研究所紀要』45、2016年11月、134-150頁。
- ・「現代修験道の宗教社会学的研究—吉野・熊野を事例として—」筑波大学、2017年3月、博士論文。

芹口 真結子 共同研究員 日本近世史、近世宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[論文]

- ・「明治五年東本願寺の九州巡回説教—教導職制度揺籃期の教化活動—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第8号、2016年3月、99-133頁。
- ・「一九世紀初頭における〈俗人〉の教化活動と真宗教団」『民衆史研究』92号、2016年12月、49-63頁。
- ・「近世仏教教団の教学統制と教化活動—東本願寺を事例に—」一橋大学、2017年3月、博士論文。

[□頭発表]

- ・「近世後期における教学論争の展開と民衆教化—文政期加賀安心争論を中心に—」近世史研究会、於東京大学、2016年1月14日。
- ・「近世真宗僧侶の教化課題—「示談録」を手がかりに—」日本史攷究会2016年度大会、於早稲田大学、2016年12月3日。

[その他]

- ・（書評）「朴澤直秀著『近世仏教の制度と情報』」『日本史研究』646号、2016年6月、62-69頁。
- ・（史料紹介）「【史料紹介】長崎県立対馬歴史民俗資料館蔵「天和三年御書物帳」翻刻」『日韓相互認識』7号、2016年11月、75-109頁。

ヤニス・ガイタニデイス (GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員

医療人類学、宗教社会学、日本学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[口頭発表]

- ・「ペンテコスタリズムにおけるジェンダー」日本宗教学会第75回学術大会、於早稲田大学、2016年9月10日。

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員

日本民俗学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

牧野元紀 共同研究員 東洋学・ベトナム キリスト教社会史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

一戸渉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[単行本]

- ・『平成28年度センチュリー文化財団寄託品展覧会 描かれた古—近世日本の好古と書物出版—』(佐々木孝浩・高橋悠介との共著)、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・慶應義塾大学アート・センター、2016年11月。

[論文]

- ・「藤貞幹『寛政元年東遊日録』について—附・慶應義塾図書館蔵本翻印—」『斯道文庫論集』第51輯、2017年2月、143-188頁。

[口頭発表]

- ・「松平定信の伊勢物語筆写活動とその周辺」基幹研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」第3回研究会、於国文学研究資料館、2016年12月26日。

[その他]

- ・「書評 蘆庵文庫研究会編『小沢蘆庵自筆 六帖詠藻 本文と研究』」『週刊読書人』第3182号、2017年3月。

小田真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

[論文]

- ・「佐倉町における日清戦争後の臨時招魂祭—増子永人「机上日記」の紹介を兼ねて—」『佐倉市史研究』30、2017年3月、101-115頁。

[口頭発表]

- ・「明治28年(1895)の郡長と地域社会—印旛・下埴生・南相馬郡長増子永人に焦点を当て—」千葉歴史学会第35回大会、於千葉大学、2016年5月22日。
- ・「常設展示をつくり、活かす—千葉・茨城の事例に即して—」第55回近世史サマーセミナー、於ファミリー

ユ神立（新潟県南魚沼郡湯沢町）、2016年7月17日。

- ・「近世後期、東総地域における「村長」と百姓」関東近世史研究会第49回大会、於駒澤大学、2016年12月4日。
- ・「某家資料を救い出す—千葉資料救済ネットで出来ること—」第3回全国史料ネット研究交流集会、於愛媛大学、2016年12月18日。

[その他]

- ・（書評）「宮地正人著『歴史のなかの『夜明け前』 平田国学の幕末維新』『明治維新史研究』14、2017年2月、58-63頁。

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[□頭発表]

- ・（講演）「宗教現象学の歴史の変遷と地域性に関する包括的研究」科学研究費（基盤研究B）による発題、於東京大学、2016年12月4日。
- ・（基調講演）「宗教文化を教える—宗教文化士の果たしうる役割と今後の課題—」宗教文化の授業研究会、於國學院大學、2017年3月8日。

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」